

「初心に帰り、当たり前前」を当たり前にやっつけよう

校長 澤田喜之

「勇退されました笠井紀世史前校長の後を受け継ぐことになりました。心を新たにして職員と力を合わせ、生徒のために精励する所存でございます。前校長同様のご理解ご厚情をいただけますようよろしく願います。」

学校が、学校らしく、生き生きとして、その教育的成果を上げることができるとは、次の「三つの教育力」が、十分に発揮されなければなりません。無論、「教師の指導力」が主軸であることは言うまでもありません。今一つは、自分で自分を教育していく「自己教育力」が発揮されることです。これが、なんと言いましても、教育の基本であり基盤であります。もう一つの力は、生徒同士が「お互いに切磋琢磨していく力」であります。集団生活を営む中で、お互いの人格を尊重し、友情を育み、協力を通して個性を発揮し合い、「お互いに感化し合って、よりよく成っていく力」であります。この三つの力が生き生きと息づいていなくては、活気に満ちた、学校らしい学校であると言うことはできません。

特に、その学校の伝統とか、校風といったものは、「上級生の在りよう」「上級生の姿」をもって示すことも、伝えることもできないものであります。教師が多く語らなくても、「上級生を見習え」と言えば、大抵のことは、間違いないと進んでいくのが、学校として「当たり前」であるはずで、我が西高も、そのような学校であることを信じています。今年の卒業生も、大学入試に於いてすばらしい成果を上げてくれ

ました。地域の方からは、「教育の名門校」として評価されております。しかし、それに胡座をかいては直ぐに駄目になってしまいます。

生徒一人一人が、伝統ある名門校としての自覚を持ち、礼節を重んじ、学校としての「品格、風格」といったものを一段と高めていかねばなりません。「品位、品格」とか「風格」というものは、誰の目にも一目でわかり、たちどころに人の心に伝わるものです。「さすが一宮西高校である」「さすが一宮西高生だけのことはある」と、何事につけて言っていただけけるようになって、初めて、教育の名門校として認められるのであります。

また、努力して成果を上げれば上げるほど、周りからの評価は、一層厳しくなるものです。我々は、一人一人が十分に自覚して、自らに厳しくあるように努めていきたいと思っております。

「当たり前」のことが、当たり前前に「できる」「やっつけてけることができる」ということは、実は大変難しいことでもあります。並々ならぬ努力を要することであり、それだけに、本校が今日まで培ってきたものが、言うなれば、本校の教育そのものが、「本物であるかどうか」が、改めて厳しく問われることになりました。

中国の故事にも、「守成は草創よりも難しい」と教えています。「それなりに出来上がったものを、新鮮さを失わず、常に生成発展させていくことは、初めから創り出す」ことよりも難しいという教えであります。

一宮西高校としましては、もう一度「初心に帰り」、一つ一つを教育目標に照らしては、本校が「当たり前」のことを、「当たり前前にやっつけてけることができる」そのよ

昨年度同窓会報告

うな学校であるということ、一つ一つの実践を通して確かめていきたいと思っております。日々新しい自分を見いだしては、一日一日を充実したものにしようという、力一杯努力していきたいと思っております。今後とも同窓会の皆様方には、本校の教育にご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成二十一年度の総会は、八月八日(土)午後五時より、一宮スポーツ文化センターで行われました。

二十四回生を中心として、総勢百十名の方々に参加していただきました。当初は四回生の学年同窓会も予定しておりましたが、残念ながら二十四回生のみの実施となりました。その関係で、参加者数の減少が心配されましたが、一昨年と全く同じ百十名の方々に参加していただくことができました。ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧正副担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。

総会では、平成二十年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成二十一年度の事業計画・予算案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただきましたように、同窓会費及び同窓会報郵送料カンパでは多くの方に協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会は、学年同窓会を担当した二十四回生に新会員の四十三回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりました。各テーブルでは、昔話に花が咲き、時が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を締めくくる校歌

斉唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。本年は五回生と二十五回生の学年同窓会を開催させていただきました。多数の方が参加していただければと考えております。なお、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場合としても同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いと考えております。今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加していただきますようお願い申し上げます。

東京支部会の報告

37回生古川直樹(2003年卒) 2009年度の一宮西高校同窓会東京支部会は、12月5日(土)に東京は新宿にて開かれました。初冬の肌寒さが増す中、総勢35名程の関東在住の卒業生にご出席いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。

一次会は昨年度と同様、新宿西口高層ビルの一室にて行いました。引き続き場所を移動しての二次会には、さらに多くの方に参加していただき、カジュアルな雰囲気の中、旧友や新たに知り合った同窓生との交流を深めました。西高からは、大脇先生、大崎先生のお二方は、はるばる東京までお越しいただきました。現在の西高の様子について報告をいただき、参加者一同、懐かしい思いで母校の近況に耳を傾けました。

本同窓会は、毎年参加される常連の方々もあれば、今回初めて参加していただいた方、また、久しぶりに顔を思い出していただいた方もいらっしゃるなど、世代を超えて、いつでも気兼ねなく参加できる会です。私自身も、同じように

東京で頑張っていたらつしやる先輩や後輩の方々の近況を伺うことで励まされ、たくさんのエネルギーをもらっています。このような素晴らしい伝統を、毎年絶やさずに続けていきたいと思っております。今年度も、10月から11月にかけての開催を予定しておりますので、関東圏在住、または、東京に立ち寄られる機会のある卒業生の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

二十一年間の西高勤務に感謝して

今枝 仁

本年四月をもって、県立高校を定年退職しました。国語科新任教員として津島高校に赴任し、ついで一宮高校、そして三校目は一宮西高校へ転勤を命じられた。以来二十一年勤務しました。この間、クラス担任、学年主任、進路指導主事、教務主任などを任せていただき、自分らしさを発揮した仕事ができただけに深く感謝していただきます。卒業生や教職員の皆さんそして保護者の皆様のおかげで、楽しく充実した教員生活を送ることができました。微力な私の工夫を拒むことなく、やる気を起こさせてくれたのが西高でした。おそらく西高に関係したすべての人々が、そんな思いを抱いておられるのではないのでしょうか。そこに集う人々に一つの共通した意識を抱かせ、自分が自分らしく生きられる活動の場を与え、自分がいまここにいることに誰もが満足できる。そして気がつくとき、それ以前とは変わっている自分を発見する、成長ということが実感できる場だと思えます。西高は単なる組織ではなく、自らの意思を持って、我々を育んでくれる有機体であるよう